

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2375200629
法人名	社会福祉法人西春日井福祉会
事業所名	グループホームペガサス春日
訪問調査日	平成 20 年 12 月 17 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 24 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2375200629		
法人名	社会福祉法人西春日井福祉会		
事業所名	グループホームペガサス春日		
所在地	西春日井郡春日町大字下之郷字新町105 (電話) 052-408-5550		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成21年2月24日

【情報提供票より】 (平成20年11月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4人, 非常勤 6人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨瓦葺平屋	造り
	1階建ての	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年11月27日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	4名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82歳	最低 69歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済衆館病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農地に囲まれた静かな環境に所在し、特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどに併設するホームである。共有空間や居室はゆったりと広く、採光や通風など工夫された設計である。広い駐車場があり訪問に便利である。2市2町で立ち上げた経緯があり、地域社会との共生を基本理念とし、利用料金も安く設定されているので待機者が多い。グループホームとして「思いやりの心」を独自の理念として、サービス提供に取り組んでいる。法人内のバスの利用が可能で、希望に沿った外出支援に活かしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	認知症の理解を広げるキャラバンメイトの講師を引き受けるなど市との連携を深める取り組みが進行している。また、研修については職員の補充ができ、随時外部研修に参加して支援に活かすよう取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組み、迷った項目を話し合うなどサービスのあり方を見直す機会としており、質の向上や改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前回の外部評価の結果報告やキャラバンメイトの検討など話し合われており、その結果、質の向上のための職員補充、市との連携を深めるキャラバンメイトの講師役の協力など実施されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情についてはホームでの受付担当者や外部の受付機関を重要事項説明書に明記し家族に伝えている。面会時を利用して意見や要望を聞く機会を作り、支援についての要望は介護計画に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	産業祭りや福祉フェスティバルなど地域行事に参加したり、ボランティアや中学生の体験学習の受け入れなど認知症の理解者を広げる事業の協力などに取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として地域社会との共生を基本理念とし、「思いやりの心」をグループホーム独自の理念として支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は採用時に職員に伝え、毎月のミーティングで確認して支援に活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周りは農地のため住民との交流は難しい環境にあるが、地域行事に参加したり、広報でグループホームの行事への参加を呼びかけるなど交流を深める働きかけがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	すべての職員で自己評価に取り組み、迷った項目を話し合うなどサービスのあり方を見直す機会としており、質の向上や改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、老人会会長に参加してもらい、評価結果など報告し意見を求め、改善に向け検討されている。	○	現在、年2回実施されているが、2ヶ月に一度開き、更に地域との交流や認知症の理解を深める働きかけが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市と連携し、認知症の理解を広げるキャラバンメイトの講師としての協力や中学生の体験学習の受け入れなど積極的に実施している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月かわら版を発行し、入居者の状況や行事報告など写真入りで伝えている。面会時を利用して金銭管理の確認や意見交換をするなど支援している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には苦情の窓口を伝え、重要事項説明書にも記載している。介護計画の見直し時には家族と会って要望など聞く機会を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にし、異動がある場合には、入居者を不安にさせないように時間をかけ理解を得ていくなど配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時外部研修に参加しており、報告書を作成し全職員が内容を周知できるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し情報交換を行い、また、勉強会などにも参加しサービス質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者の家庭をケアマネジャーと職員が訪問し状況を聞き取り、また、本人や家族にグループホームを訪問してもらい、時間をかけて雰囲気に馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として接しており、庭の花梨の実の効能を教えてもらったり、特技の上達法を聞くなど経験話で会話が弾む光景も見られ、支えあう関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の自立度や生活暦に配慮し、席決めや外出支援などなされている。プラン作成時にも希望など聞き、支援に取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族と十分話し合い、希望を取り入れたプランを作成している。毎日チェックシートで支援を確認し、状態の変化など把握する体制ができている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行い、状態変化があれば必要に応じ随時見直しをしている。家族の意見を聞き個々の状態に応じたプランを作成し、その都度確認してもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族のいない方への権利擁護の支援や希望の外出先への送迎など要望に応じた支援がなされている。法人内の施設の職員との協力関係もできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に家族の協力を得て受診しており、家族で対応できないときには職員が支援している。また、入居者全員が春に定期健診を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしては自立支援の体制であることを家族に説明し理解を得ている。重度化した場合は、入居者全員が特養への転居を希望しており、医師や家族と相談して納得できる退去先への支援がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「思いやりの心」で支援されており、声かけや接し方に問題は無く、記録など個人情報の管理も十分なされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でもその人のペースで食事をしたり、手芸や書道などを学ぶ、特技に熱中するなどその人らしい暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気の合う人と少人数で準備に参加したり、交代で行うなど工夫があり、味付けを吟味するなど楽しく食べている姿が見られる。クリスマスなど行事の時には好物の寿司などが献立に入れられ楽しみの一つとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じ、毎日ゆっくり入浴できる支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事分担など役割を決めたり、法人施設内での作品展に出品するなど趣味や特技を活かす取り組みがある。落語や手品などを楽しむ機会も作られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日の散歩や希望に沿った買い物の支援のほか、法人内のバスを利用しての外出支援もなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	認知症からくる外出願望の強い人には見守りで支援するなど対応して、玄関は施錠せず自由に出入りができるケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間や地震を想定し避難訓練は年2回実施しており、非常口の表示も見やすい。消防署に協力を依頼し防火訓練も進められており、非常食などの準備もなされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師の免許を持った職員がおり、栄養のバランスに配慮された献立が作成されている。水分補給も体操後やおやつの時間に調整されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はゆったりとして広く、天窓などで光の配慮や空気の流れで臭いがこもらないように工夫がされている。観葉植物や季節の花があり、心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	押入れや車椅子を入れる空間があり、居室内は好みの家具やテレビ、いすなど自由に配置されている。趣味のものが置かれるなど入居者ごと個性のある部屋となっている。		

※  は、重点項目。